

## < 降雨予測の限界を踏まえた防災対応 >

### ○予測の共通認識の構築

- ・引き続き、降雨予測精度の向上は必要。ただし、前線性降雨については、現状では精度の高い予測は困難であり、研修会などで予測精度の限界を含めた共通認識を構築

### ○線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組

線状降水帯予測は、順次、地域の絞り込み等の改善を計画的に推進

## 対応策

- ・降雨予測精度の向上、研修会等で予測精度の共通認識を構築

## < 警戒感・危機感の共有 >

### ○分かりやすい情報と読み解きにむけて

- ・リスクコミュニケーションの難しさを意識した読み解き（リテラシー）に関する共通認識の構築が必要。
- ・気象台や国、県が連携して、WEB会議等を通じて、予想降水量だけでなく各地域の想定される災害リスクについて分かりやすく、報道機関も含む防災関係機関に共有することが必要。
- ・大雨への警戒について報道機関等を通じて住民にもわかりやすく伝えることも必要。
- ・土砂災害警戒情報の精度向上（発表基準の見直し）、解除文の改善（解除後の土砂災害への注意喚起の追記を検討）を県と連携し実施する。
- ・流域雨量指数予測値を用いた事前対応の促進

## 対応策

- ・気象台、県が連携し防災情報の理解促進のため、市町向け研修の充実を図る。
- ・市町や報道機関が参加し、WEB会議等で気象台、県、国が連携して雨量と災害リスクのイメージを共有する。
- ・土砂災害警戒情報の発表基準、解除文案の改善
- ・流域雨量指数の予測値提供河川の拡大

### 概況

8月4日から5日は、日本海から北陸地方を通して日本の東にのびる前線がゆっくり南下しました。日本の南に中心を持つ高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が前線に向かって流れ込んだ影響や、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となりました。福井県では、4日昼前には奥越で猛烈な雨が降り、線状降水帯が発生して激しい雨が降り続いた。また、5日明け方から朝にかけて嶺北南部や嶺南東部に次々と発達した積乱雲が流れ込み、断続的に猛烈な雨が降り記録的な大雨を観測しました。

「令和4年8月4日から5日の大雨に関する 福井県気象速報」より抜粋

